

科目区分：人文・社会科学

授業科目名	人間と文化（哲学）					学期	曜 日	校時
英 語 名	Humanity and Culture (Philosophy)							
担 当 教 官 名	井 上 義 彦	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	月曜日	2 校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
哲学は Philosophia とは、philo（愛求する）＋ sophia（知恵）として愛知の学である。知恵とは世界や人間における根本原理であり、それを愛求することが哲学することである。では、ある知識が真理として原理であるとは何故いえるのか。真理成立の根拠は何か（真理論）。なぜ真理として認識できるのか（認識論）。哲学の根本問題を考える。								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
教科書は用いない。参考文献は適宜紹介する。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
全 学 部	定期試験、出席状況等を考慮して行う。							
授 業 計 画								
第 1 回	哲学の語源から、哲学とは何かを考える。							
第 2 回	古代ギリシャから中世を経て近代に至る哲学の歴史。							
第 3 回	近代哲学の特色と意義。							
第 4 回	F．ベーコンの哲学（経験論）。							
第 5 回	} R.デカルトの哲学（合理論）。							
第 6 回								
第 7 回	経験論（帰納法）と合理論（演繹法）との対比的考察。							
第 8 回	真理論—— 対応説（経験論）と整合説（合理論）。							
第 9 回	合理論と経験論との批判的総合としてのカント哲学。							
第 10 回	} カントの「思考法の革命」としてのコペルニクスの転回の意義。ア・プリオリで総合的な認識の可能性（認識論）。							
第 11 回								
第 12 回	} 霊魂の不死の証明、決定論と自由の問題（二律背反）、神の存在証明などの形而上学の問題 に対する解答。							
第 13 回								
第 14 回	ヘーゲルの哲学と弁証法。							
第 15 回	まとめとしての総論。							